



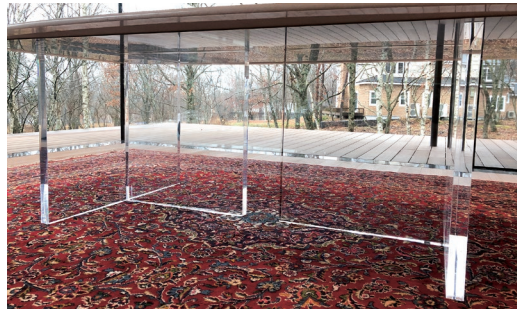
「大阪の元気! ものづくり企業」冊子掲載企業(匠企業)
大阪府では、「大阪のものづくり優良企業賞」受賞企業等、大阪府内の総合力が
高く優れたものづくり中小企業を「匠企業」として位置付けている。



大阪府経営革新計画承認企業
大阪府では、中小企業者の経営革新を支援するため、中小企業
等経営強化法に基づき経営革新計画の審査・承認を行っている。

4 よそではできないものもおまかせ。 「アクリル加工の駆け込み寺」。

アクリル樹脂加工の試作や多品種少量生産で知られる共栄化学工業株式会社。1951年の創業時は樹脂をリサイクルするメーカーだったが1988年に工場が全焼し、受注生産にシフトしていった。3代目代表取締役となる稲垣圭悟氏は2004年に就任。引き継いだ当初は一社に依存する形で、不況の波に飲まれ発注が8割激減。18人いた職人が4人になった。「入社までは異業種で働いていたので加工の知識が深いわけでもなく、営業の経験もない。廃業を考えるほど厳しい状況下で、事業戦略を徹底的に考え直しました」。模索するなかでとり着いたのが、ネットによる集客だった。「2時間で見積もり上げます!」を謳い文句に掲げ、製造業ではまだ珍しかった業務形態に挑んだ。当時売りにしていたのはアクリルを切削して形にするNCの量産。多く手がけたのがドラッグストアの化粧品売り場や家電量販店にある棚仕様に、セットするディスプレイ用アクリル。ひとつの仕器に対して20~30種類あり、それを春と秋に入れ替えるため大量の注文が入った。いっぽうネットの注文は単品が多く難しい加工もあった。稲垣氏は自分たちがやりたい仕事を「高い技術力が必要でよそでは絶対にできないもの」と語る。小ロットでも親身に対応してきた結果、現在は顧客の約40%が個人で内容もばらばら。そんな「ややこしい注文」を専門にして技術を上げてきた自負があり、それは今後も変わらない。同社ではアクリルの炉曲げ加工など、対応できる会社が少ない加工も手がける。炉曲げ加工は炉でアクリルを温め柔らかくし、木型に沿わせ



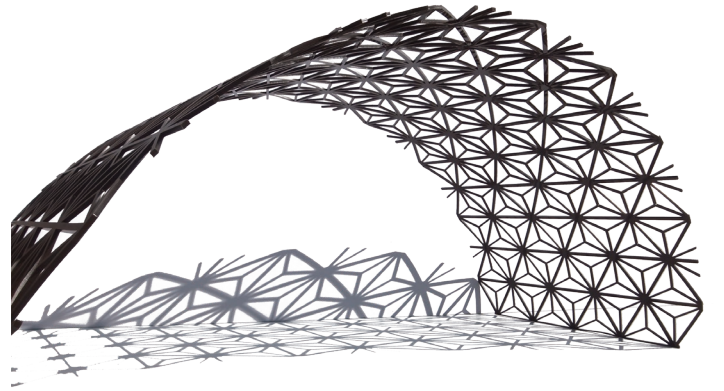
エンドユーザーから依頼で5mほどの木の天板を支える脚を製作。その後、こちらが飾られた家を設計した建築事務所の人が気に入り、新たな顧客になったという

て形成するが、この木型も内製している。また大学向けの実験器具など精密さが要求される加工も得意だ。小惑星探査機「はやぶさ2」の部品試作、新幹線のホームにある電光案内表示板の時計カバーなど他社がためらう案件にも対応し、今では「アクリル加工の駆け込み寺」と呼ばれるほど高い信頼を寄せられている。成長に合わせて大型成形炉をはじめ設備もどんどん導入してきた。今春には事務所にショールームをつくる予定だという。挑戦はまだまだ止まらない。 [続く▶](#)



共栄化学工業株式会社

<http://www.kyoeikagaku.com/>
八尾市山賀町4-63 TEL 072-922-1681



レーザーエッチング+炉曲げ加工、と同社の技術を集結した意匠性が高いオブジェ。レーザーで切り抜いた極細のアクリル板を、炉に入れ型に押し当て曲げる高度な技術が注ぎ込まれている



作家からの依頼で製作された店舗用ディスプレイ。アクリルに透明なシートを張り、天井から吊ることで空間にアート作品が浮かぶようにみせている

5 クリエイティブを刺激する。 ワイヤーの世界へようこそ。

一般には馴染みがないが、ある世界では必需品とされるものがある。フラワーアレンジメントにおけるワイヤーがまさにそれ。針金のまま使われる裸ワイヤーと高度な技術で色紙を被覆した地巻きワイヤーがあり、生花の根本にワイヤーを括りつけそれを束ねることで飾りができる。柔らかく角度も自由自在。なのになんかしっかり定着でき、見た目のバリエーションも多彩だ。現在こういうワイヤーを扱う会社は国内でもごく少数。1948年に創業した株式会社朝日ワイヤープロダクツは造花の芯の針金づくりからスタートし、同業者が海外生産によって淘汰されていくなか、技術を守り素材や色、硬度を高めたものなどバリエーションを増やしワイヤーの価値を高め、業界を支えてきた。定番商品の地巻きワイヤーは隠して使うアレンジを支える裏方的な存在であり、先代まではこれを中心に展開してきた。いっぽうで最近脚光を浴びているのが、和風デコレーションワイヤー。こちらは意匠性が高く、花と並ぶ主役級の存在感を放っている。「あるとき紙を太めに巻いたらラッピングに使えるなど思っただけで、さらに紙や色の種類を増やしていき、紙だけでなくレーヨンと組んでみたんです」。そう語るのは朴憲久代表取締役社長。花の世界ではプリザーブドフラワー、ハーバリウム、海外では食べられるアートとして知られるシュガーフラワーにまで活用され、流行とともに進化を遂げてきた。同社の製品はヨーロッパやアメリカを中心に輸出もされており、海外



美術館やギャラリーの作品を和紙のワイヤーロープで壁に吊るすという提案も。白なら壁に溶け込んで作品が浮いているように見え、カラフルなワイヤーなら存在感も増す

での販売には可能性を感じているという。「和紙という素材の魅力に加えて、色味が多く海外には少ない中間色も多いため注目されています」。最近では花以外の用途を探ってウェブサイトも刷新、SNSにも力を入れ、ギフト系の展示会にも出展している。「ものづくりをする人は、想像を超えた思いがけない使い方をされます」と新たな出会いに期待する。フラワーアレンジメントに限らず、クリエイターにとってアイデアを刺激される資材であることは間違いない。今後の情報発信や交流で新たな可能性も広がらそうだ。 [続く▶](#)

株式会社朝日ワイヤープロダクツ

<https://www.asahi-wire.co.jp/>
東大阪市楠根1-7-5
TEL 06-6746-1161



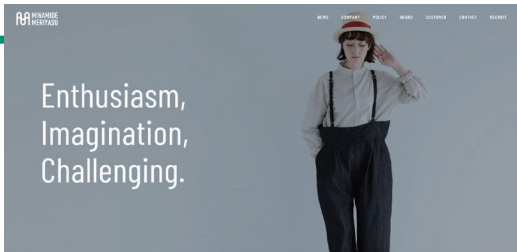
和紙に自由に形を変えられるラフィア加工が施されたラッピングワイヤー。ひねりを加えるだけで簡単に美しい包装が可能に



和風な色彩のレーヨンを緻密に巻きつけたワイヤー、ワイヤーツイスト。花の形に丸めてふんわりさせるだけで華やかさがアップ。髪飾りにも使える

6 ファクトリーとしての誇りと 時代が求める デザイン性を両立。

コロナ禍に見舞われた2020年。その大きな打撃を受けた業界の一つがアパレルだ。そんな苦境に喘ぐアパレル業界において、好調な企業がある。創業1953年から70年近く、国産にこだわってきた南出メリヤス株式会社だ。ファクトリー主導のアパレルは日本では非常に珍しい。先代が閑散期をまかなうものとしてオリジナル商品の製造を決め、企画力を培っていった。時代とともに作るものもインナーからアウターへと変化し、それとともないデザイナーを抱え、技術的な生産能力を高め、設備投資をして基盤を固めた。躍進の鍵となったカジュアルブランド「NARU」は、代表取締役社長の南出和成氏が立ち上げたものだ。「NARU」は価格にも驚く。現在市場で見られる国産のウエアはずか3%。その多くが付加価値をつけられた高額商品なのに対し、デイリーウエアらしい価格帯で勝負する。「コスト面は昔から追求してきました。生地も素材から吟味して交渉する。泉州という国内屈指のニットの産地というメリットもありました」。卓越した技術者があり、機械の背景も理解したうえで高品質のものをつくり上げることができる。そして、20代社員も多く、工場主体のブランドの欠点であった、デザイン性やトレンドといったファッションに重要なファクターを併せ持っている。



ウェブストアは2019年から、ナチュラルカジュアルの「NARU」と、日常にちょっと背筋をのほほしたいときのきれいめライン「REFRAIN」の2ブランド展開

さらに数年前から市場の変化を見据え、生産方法を見つめなおしCAMを導入したことが功を奏した。経営革新計画の採択を経て、ものづくり補助金で購入した。これで生産性が劇的に変わったという。デザインして指示書を描いたら、オペレーターがCADデータを作成しCAMで一括裁断する。使用開始は2020年4月。コロナ禍によるオンライン展示会でも一括オーダーが少なく、つどつどの発注ベースの生産となっていたが、これに対応できたのも小ロットでのリードタイムが短いCAMがあってこそ。「時代の変化を肌で感じている。しかし今、頑張ればコロナが落ち着いた頃には、新しいスタイルで突き進める。それは「次の時代に渡せる企業に育てることが、自分の使命」と語る、南出氏の改革が実を結ぶときでもある。 [続く▶](#)

南出メリヤス株式会社

<https://minamide.jp/>
<https://narufactory.shop/>
泉大津市北豊中町2-2-3 TEL 0725-21-0865



暮らしを豊かに、自然と笑みがこぼれる着心地の良い「高品質」を展開する「NARU」のデイリーウエア



CAMの導入により、外注していた裁断も内製化。何枚も重ねた生地をコンピュータ制御によりカットしていく。カメラを使用することでプリントされたパターンを自動で認識して裁断する